

中期計画策定における基本的方向の整理案

～「実践力ある人材の養成」を核にした計画づくり～

「実践力」…主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる能力

中期目標の構成	現 状	具体的な実績（データ）	今後の方策案
<p>(前文) 大学の基本的な目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <p>(7) 入学者選抜の改善</p> <p>(4) 教育内容の改善・充実</p> <p>(ウ) 多様な教育・履修システムの構築</p> <p>(イ) 適切な成績評価等の実施</p> <p>(3) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>(7) 教育体制の整備、充実</p> <p>(4) 社会ニーズの変化への的確な対応</p> <p>(ウ) 教育研究内容に応じた施設・設備や図書等の資料の整備</p> <p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>2 研究に関する目標</p> <p>3 地域貢献に関する目標</p> <p>(1) 地域社会との連携に関する目標</p> <p>(2) 国際交流等に関する目標</p> <p>4 運営体制の改善に関する目標</p> <p>5 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>6 人事の適正化に関する目標</p> <p>7 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>8 財務内容の改善に関する目標</p> <p>9 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>10 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>意欲ある学生の確保</p> <p>○大学を実際に見学し、自分の目で確かめることで大学への理解や認識を深めてもらうことを目的として、高校生や保護者、高等学校の教員を対象として、オープンキャンパスを実施した。</p> <p>○平成18年度一般選抜については、前後期とも志願者数と受験者数が募集人員を大きく上回り、合格者の多くが入学している。</p> <p>確かな教育の実施</p> <p>○副学長（教育研究担当）をセンター長とする総合教育センターを設置し、全学的に共通教育・専門教育を体系的にとらえた教育システムの確立及び入試から就職対策までを総合的に企画・実施することが可能な体制を敷いた。</p> <p>○外国語教育については、CALL教室を整備するとともに、検定英語では、TOEICテストの達成度により、単位認定することとした。また、必修の英語科目については、30人クラスの編成とし、スピーキング及びライティングを中心とした授業は、原則ネイティブ・スピーカーが担当した。</p> <p>○情報基礎教育については、情報リテラシーの向上を主な目的とした科目として、学部1年生を対象とした全学共通教育科目に「情報処理入門」及び「情報科学入門」を設置した。</p> <p>○新入生に対しては、導入教育（大学生生活の基礎知識及び大学生としての学習方法を修得させる）を目的として、フレッシュマンセミナーを全新生に課した。</p>	<p>入学者選抜結果</p> <p>→競争倍率 H17年度 3.5倍→H18年度 3.7倍（前期日程）</p> <p>オープンキャンパスの状況（H17年8月）</p> <p>→来場者数 広島 1,048人・庄原 151人・三原 1,354人</p> <p>県立広島大学を選んだ理由（H17年度入学生）</p> <p>・希望する学部・学科があった 55.2%（全学）</p> <p>・希望した大学に入れなかった 39.9%（生命環境学部）</p> <p>履修状況（H17年度）</p> <p>・全学共通科目</p> <p>→11,590人の履修登録者の内、単位を取得した者 10,056人（92.5%）保留・中断した者 715人（6.2%）</p> <p>・専門科目</p> <p>→8,396人の履修登録者の内、単位を取得した者 7,765人（96.5%）保留・中断した者 346人（4.1%）</p> <p>TOEIC受験の状況（H17年度）</p> <p>→前期 340人受験 平均 395点</p> <p>後期 155人受験 平均 437点</p> <p>現代GPの採択（H18年度）</p> <p>・学生参加による世界遺産宮島の活性化～学生が宮島の魅力を再発見し、世界に発信する～</p> <p>・経営情報実践的総合キャリア教育の推進～インターンシップ制度を活用した経営情報化企画技法の学習～</p>	<p>◎学部・学科、研究科・専攻のアドミッション・ポリシーをより明確にする。</p> <p>◎一般選抜に係る個別学力試験の有効性及び対費用効果などを検証し、効果的な学力試験のあり方を検討する。また、推薦入試については、選抜方法を検証し、その改善を図る。</p> <p>◎引き続き、ホームページ、オープンキャンパス、高大連携講座、高校訪問等を利用して学部・学科の知名度を高めるとともに、入試関連情報の周知を図る。</p> <p>◎外国語教育については、学生の多様なニーズに対応した、より幅広い選択科目の提供やeラーニングの活用等について検討する必要がある。</p> <p>◎情報基礎教育については、教員のスキル向上とともに、学生に対する各種認定試験対策の支援及び情報倫理・情報リスク教育の水準向上に取り組む必要がある。</p> <p>◎4年間の教育の成果が、学生の将来の進路につながっていくよう、キャリア教育を充実していく必要がある。</p> <p>◎フレッシュマンセミナーについては、初年次教育として何を教えていくのか、学部・学科ごとに議論し、その授業内容を改善していく必要がある。（導入教育の充実）</p> <p>◎現代GPを着実に実行し、本学独自の教育プログラムを定着させる。</p>
<p>(4) 学生への支援に関する目標</p> <p>2 研究に関する目標</p> <p>3 地域貢献に関する目標</p> <p>(1) 地域社会との連携に関する目標</p> <p>(2) 国際交流等に関する目標</p> <p>4 運営体制の改善に関する目標</p> <p>5 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>6 人事の適正化に関する目標</p> <p>7 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>8 財務内容の改善に関する目標</p> <p>9 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>10 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>授業の改善</p> <p>○教員の教育力の向上を最重要課題の一つとして、全学・各学部でFD研修会を実施した。</p> <p>○学習者自らが、自己の英語学習に自発的、主体的に取り組む仕組みと環境を提供するため、各キャンパスにCALL教室を整備した。</p> <p>○学生による授業評価については、平成17年度後期に開講された全ての授業科目（学外実習科目、卒業論文を除く。）を対象に実施し、その結果を各教員にフィードバックした。</p>	<p>FD研修会の実施状況（H17年度～）</p> <p>→3回開催（フレッシュマンセミナー実践事例報告等）</p> <p>FD研修会の参加状況（H17年度～）</p> <p>→第1回 68.1%、第2回 42.7%、第3回 37.1%</p> <p>学生による授業評価アンケート調査の結果</p> <p>・H17年度後期開講の全授業科目で実施</p> <p>シラバスのとおりに進められた…89.1%</p> <p>総合的満足度…80.3%</p> <p>後輩にこの授業を勧めたい…80.1%</p>	<p>◎FD活動については、教員の意識改革と組織内の教育力向上のための循環システムを構築する必要がある。</p> <p>◎授業評価の評価基準や尺度の妥当性及び評価結果の活用法について、さらに検討・改善していく必要がある。</p> <p>◎多面的な視点を持った客観的な基準による教員の業績評価制度を導入し、評価結果を人事、給与、研究費、任期更新等に反映させる仕組みを構築する。</p>
<p>(1) 地域社会との連携に関する目標</p> <p>(2) 国際交流等に関する目標</p> <p>4 運営体制の改善に関する目標</p> <p>5 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>6 人事の適正化に関する目標</p> <p>7 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>8 財務内容の改善に関する目標</p> <p>9 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>10 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>きめ細かな就職支援</p> <p>○キャリア形成と就職支援の観点から、学生が入学後の生活の早い時期から大学生活を把握し、明確な目標を持てるよう指導教員とともに考えるため、「自己発見レポート」をほぼ全学部で実施した。</p>	<p>卒業後進路の状況（H18年4月1日現在）</p> <p>→就職率 女子大 89.1%、県立大学 98.3%、保健福祉 100.0%</p> <p>国家資格合格率の状況（H18年4月1日現在）</p> <p>→看護 94.9%、保健 88.9%、助産 100.0%、理学 96.3%、作業 96.6%、言語 90.3%、社会福祉 78.4%、精神保健 88.0%</p>	<p>◎キャリア教育の充実、インターンシップの着実な実施、資格取得の支援等を引き続き進めるとともに、積極的な企業開拓や全国区の就職活動支援など、きめ細かな就職支援策を展開するため、就職支援専管組織（キャリアセンター（仮称））の設置を検討する。</p> <p>◎就職情報の収集や就職活動支援等に資するため、同窓会等との連携などにより、既卒者とのネットワークを構築する。</p>
<p>7 事務等の効率化・合理化に関する目標</p> <p>8 財務内容の改善に関する目標</p> <p>9 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>10 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>確かな研究の推進</p> <p>○受託研究、共同研究、研究奨励寄附金、提案公募型研究について、平成17年度は、採択件数、金額ともに、前年度を上回った。</p> <p>○研究者紹介名簿の作成や地域連携センター報の発行により、本学の研究シーズのPRに努めた。</p> <p>○質の高い研究を維持・推進するため、科学研究費補助金の申請を強く促し、その申請の有無により、次年度の研究費配分に強く反映させる制度を導入した結果、申請率は、前年度から大きく向上した。</p> <p>○平成18年度（平成17年秋応募分）の科学研究費補助金については、平成18年度の採択件数、金額ともに前年度を上回った。</p>	<p>外部資金等研究費の状況（H17年度）</p> <p>受託研究 16件 51,489千円</p> <p>共同研究 9件 19,106千円</p> <p>研究奨励寄附 35件 38,424千円</p> <p>提案公募型研究 7件 36,850千円</p> <p>合計 67件 145,869千円</p> <p>科研費の採択状況</p> <p>→H18年度 48件 60,100千円（H17年度秋応募分、継続採択を含む）（前年度 47件 57,800千円）</p> <p>科研費の申請率</p> <p>→全教員のうち 84.6%が申請（H17年度秋応募分、継続採択を含む）（前年度 66.5%）</p>	<p>◎受託研究・共同研究など、企業や公設試験研究機関等との連携を推進する。</p> <p>◎科学研究費補助金を獲得するため、過去の採択事例の公開や説明会等を開催するとともに、その申請の有無を個人研究費の配分に反映させるなど、引き続き積極的な応募を促進する。</p> <p>◎本学の研究シーズ（研究人材、研究成果等）をホームページで公開する等、研究に関する情報提供を積極的に進め、新たな外部資金の獲得に努める</p> <p>◎地域課題解決型研究に積極的に取組むとともに、地域からの意見等を研究の水準の向上に結びつける。</p>
<p>9 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>10 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>大学資源の地域への提供</p> <p>○セミナーや講演会、シンポジウムなどの社会貢献活動を積極的に行い、公開講座、三原シティカレッジ、産学官連携セミナー等、合計116回、4千人を超える参加者があった。</p> <p>○公立大学で初めて、経営情報学専攻に社会人向け1年制課程を設置し、入学者9人の内、女性（1人）や69歳の男性など7人が修了した。</p> <p>○大学院においては、社会人の教育ニーズに応えるため、昼夜開講制度を導入した。（人間文化学専攻、経営情報学専攻、保健福祉学専攻）</p> <p>○生涯学習の機会を県民に幅広く提供するため、入学金・選抜料を必要としない聴講生制度を創設した。</p>	<p>地域連携センターの活動状況（H17年度）</p> <p>→産学官連携セミナー等 16回 参加者数 824人</p> <p>講演会・シンポジウム等 5回 798人</p> <p>公開講座 26回 649人</p> <p>三原シティカレッジ 35回 1,227人</p> <p>ほか 計 116回 4,252人</p> <p>聴講生の状況（H17年度）</p> <p>→人間文化 8人、経営情報 1人、保健福祉 3人、全学共通 17人、合計 29人（前期 22人・後期 7人）</p> <p>科目等履修生の状況（H17年度）</p> <p>→1人（全学共通）</p>	<p>◎地域のニーズを把握し、公開講座の充実を図る。</p> <p>◎聴講生制度や科目等履修制度等の周知に努めるなど、社会人に対する受入れ制度を充実する。</p> <p>◎社会人が学習目的に応じて特定の専門科目を短期間（1～3か月程度）に集中して学ぶことができるような仕組みの導入を検討する。</p>

～入口から出口まで一環した教育方針による実践力ある人材の養成～

「実践力」…主体的に考え、行動し、地域社会で活躍できる能力

〔 キャリアビジョン・職業観・外国語能力・情報活用能力・
コミュニケーション能力・課題発見能力・質問能力・討論能力・
進化する科学技術に対応できる専門知識・技術 など 〕

学生の実践力の向上

確かな教育の実施

- ◎導入教育の充実
- ◎社会人としての行動様式、責任感の涵養
- ◎キャリア教育の充実
- ◎学生に対する資格取得の支援
- ◎現代GPの着実な実行
- ◎チューター制度の充実

研究内容を教育に反映

教員の実践力の向上

授業の改善

- ◎FD活動の推進（教員の意識改革）
- ◎授業評価の評価基準の改善
- ◎教員の業績評価制度の導入

研究水準の向上と外部資金の導入

確かな研究の推進

- ◎受託研究・共同研究等による産学連携の推進
- ◎地域課題解決型研究の推進
- ◎科学研究費補助金の獲得
- ◎研究内容の教育への反映
- ◎研究シーズ（研究人材、研究成果等）のPR

地域貢献による評価の向上

大学資源の地域への提供

- ◎地域ニーズに対応した公開講座等
- ◎地域課題解決型研究の推進（再掲）
- ◎産学連携の推進（再掲）
- ◎図書館、施設等の開放

幅広いクライアントの獲得

意欲ある学生の確保

- ◎アドミッション・ポリシーの明確化
- ◎入学者選抜方法の検証と改善
- ◎オープンキャンパス、高校訪問等による学部・学科の知名度アップ
- ◎社会人受入れ制度の充実

出口の成果が入口の底上げに繋がる好循環の創出
実践力の発揮 ⇒ 大学に対する評価の向上



学生・保護者・地域企業等の満足度の向上

きめ細かな就職支援

- ◎キャリアセンター（仮称）の設置
- ◎インターンシップの着実な実施
- ◎資格取得の支援（再掲）
- ◎積極的な企業開拓（全国区の就職活動支援）
- ◎既卒者とのネットワークの構築

環境変化に対応した戦略的・機動的な大学運営

大学運営の効率化

- ◎運営体制の改善
- ◎財務内容の改善
- ◎自己点検・評価の実施

